

世界遺産は未来の世代に引き継ぐ
人類共通の「たからもの」

世界遺産とは、現代を生きるすべての人々が共有し、未来の世代に引き継いでいく人類共通の「たからもの」です。文化遺産、自然遺産、複合遺産の3つに分類され、登録されると「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約(世界遺産条約)」に基づき、国際的に保護・保全していくことが義務付けられます。

平成28年1月現在、世界中では1031件、日本では19件(文化遺産15件、自然遺産4件)が登録されており、その中には「古都京都の文化財」や広島県の「原爆ドーム」、昨年登録された「明治日本の産業革命遺産」などがあります。

世界に類を見ない長崎の教会群と キリスト教関連遺産

本市の「黒島天主堂」など14の資産で構成されている「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」(以下長崎の教会群)は、日本におけるキリスト教の伝来と繁栄、激しい弾圧と潜伏、そして復活という世界に類を見ない布教の歴史を物語る資産として、平成19年、世界遺

産暫定リストに登録されました。

世界遺産として登録されるためには国際的な判定基準で「世界遺産としての価値(顕著な普遍的な価値)」があると認められることが必要条件です。長崎の教会群は次の点で価値があると考えられています。

- 450年にわたる日本と西洋の価値観の交流を示しており、その交流が、城跡、集落、教会建築に表れている
- 日本文化との相互作用によって生まれたキリスト教文化という独特の文化的伝統を物語っている
- キリスト教の極東への到達という顕著な普遍的価値を持つ歴史と直接関連しており、日本におけるキリスト教の受容の過程を今に伝えている

本市の「黒島天主堂」は、禁教下に離島に移住し、ひそかに信仰を継承した場であるということ、西洋の技術と日本の伝統技術、習慣が融合した建物であることから、長崎の教会群を構成する重要な資産と位置付けられています。

長崎の教会群は昨年1月に国からユネスコに推薦され、ことし7月のユネスコ世界遺産委員会において、世界遺産としての登録の可否が決定する予定です。

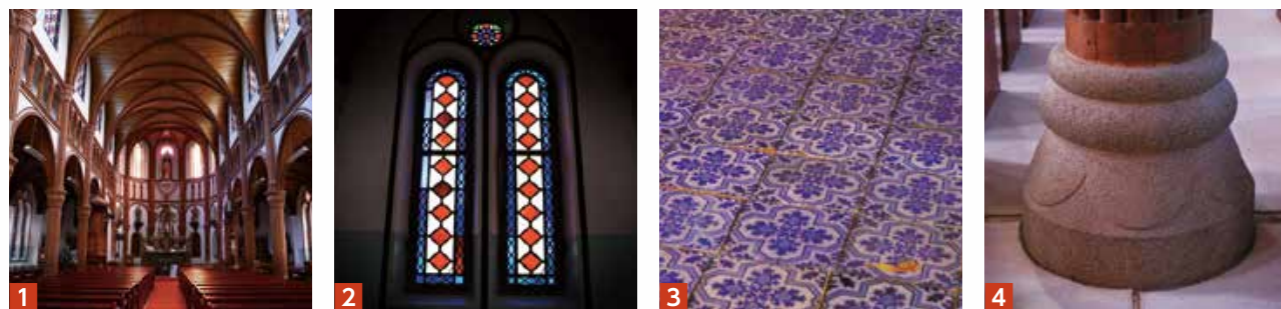
特集 ことしの夏、黒島天主堂が世界遺産へ 今動き出す、黒島

本市の黒島天主堂など14の資産からなる「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、いよいよことしの夏に世界遺産として登録の可否が決まります。世界遺産登録に向けて、さまざまな取り組みがスタートした黒島。今回の特集では、世界遺産登録までの流れや新たに設立されたNPO法人黒島観光協会、黒島で活躍する地域おこし協力隊などについてお知らせします。

外国のものと地元のもの美しく 調和する黒島天主堂

明治政府の禁教令廃止後に信徒が急増した黒島で現在の天主堂の建設が始まったのは明治30(1897)年のこと。島に主任司祭として赴任してきたフランス人のマルマン神父は教会建築に造詣が深く、設計をはじめ洗礼台や説教壇などの製作も自ら手掛けました。教会は半円アーチを多用するロマネスク様式で重厚なレンガ構造となっており、ステンドグラスや鐘はマルマン神父が祖国フランスから取り寄せました。また、柱の土台には黒島特産の御影石が祭壇床には有田焼のタイルが使われており、外国のものと地元のもの美しく調和しています。

当時としては非常に大規模なレンガ造りの教会で、建設には現在のお金に換算すると約3億円が掛かったといわれています。この途方もない金額を、島中の信徒たちは貧しい暮らしの中から工面し、労働奉仕で協力しました。現在でも黒島の島民の約8割はカトリック信徒で、建築から100年以上が経過した今でも、マルマン神父や天主堂は信徒の心のよりどころとして、生活の中に息づいています。



1 建設当時の様相をよく残している内装 2 マルマン神父が祖国フランスから取り寄せた4色のステンドグラス
3 有田焼のタイル 4 黒島の特産、御影石を使った柱台





世界遺産を機に地域全体で観光に取り組む

島を挙げて観光客の皆さんにおもてなしを

当時の思いを今に伝える天主堂は、平成10年に国の重要文化財に指定されました。黒島地区公民館長を務める山内一成さんは指定をきっかけに「黒島史跡保存会」を立ち上げ、年間千人〜2千人前後訪れる観光客を相手に、これまで3人でガイドを行ってききました。しかし、世界遺産への期待の高まりとともに観光客が急増。本年度は5千人もの観光客が島を訪れることが見込まれています。



山内さんと談笑する市立黒島診療所の医師・羽田野和彦さん。NPO法人の設立に当たっては山内さんと設立準備委員会を発足させるなど、大きな力となりました

「ガイドも少ない、公共交通機関も無い中で、増える観光客にどう対応するのが課題になりました」と山内さん。そこで平成24年ごろから、島民や関係者と話し合いを重ね「島を挙げて観光客の皆さんにおもてなしを」と平成27年1月、「NPO法人黒島観光協会(理事長・山内さん)を立ち上げました。住民を対象に説明会も行い、島の人口の約5分の1に当たる85人(賛助会員2人を含む)がN



黒島地区公民館長(黒島観光協会理事長) 山内一成さん

POの会員になりました。

ことし1月には観光協会が運営する「観光ウエルカムハウス(仮称)」が黒島港に誕生し、今後は施設を拠点に、観光客の受け入れや現在開発中の土産品の販売などを行っていきます。

新たなガイドの養成

まずは島を案内するガイドを増やそうと呼び掛けたところ、島の有志20人から応募があ



11月21日に開催された「ガイド養成講座」で救急救命講習を受講する皆さん。この日は15人が参加しました



りました。20代から70代の応募者は漁師やシスターなど職種もさまざま。これまで全7回の養成講座で、必要な歴史上の知識や緊急時の対応などを学び、実際にコースを歩いたり、人前でガイドをしたりする練習を行ってきました。

山内さんは「それぞれ自分の得意な分野を生かしたガイドになって、活躍して欲しいですね」とガイドの卵の今後の活躍を期待します。

公共交通機関が無かった黒島ですが、観光ウエルカムハウス(仮称)には電動アシスト付レンタサイクルの設置も決まり、バスの導入を検討したりするなど、少しずつ課題解決に向けて取り組んでいます。

島の活性化と雇用増を

これまで27年にわたって公民館に勤め、地域に密着した活動をしてきた山内さん。高齢化・過疎化が急速に進む黒島では、島の将来を担う後継者の育成も重要な課題です。

山内さんは「世界遺産登録を

花柄がデザインされた円形のステンドグラス。黒島天主堂のシンボルになっています。



ガイドに挑戦します！

島外の人から黒島や天主堂について尋ねられることも増えてきて、今回は良い機会だと思って参加しました。黒島生まれ黒島育ちで、教会にも子供のころから通っていましたが、あらためて講座を受けてみると初めて知ることも多く、とても勉強になりました。今後も勉強して、ガイドに挑戦していきたいと思います！

養成講座受講生 牧山由利子さん



の市にあるということを知ってもらいたい。そして25万人の皆さんに黒島をPRしてほしいですね」と山内さん。

長崎の教会群が登録されると、本市から初の世界遺産が誕生することになります。黒島天主堂や離島ならではの風景を見に、皆さんも黒島を訪れてみませんか。

取材日 11月19日



黒島に新しい風を吹き込む「地域おこし協力隊」

「地域おこし協力隊」とは、自治体が都市から住民を受け入れ、地域おこし活動の支援や農林漁業の応援、住民の生活支援など「地域協力活動」に従事してもらい、定住・定着を図りながら地域の活性化につなげる取り組みです。本市では昨年4月からこの制度を導入し、現在、宇久島と黒島で4人の隊員が活躍しています。黒島地域で活動する石津義秀さんと三原直也さんに話を伺いました。

何か面白いことが起こりそう

都市部や海外で働いた経験を経て、地域おこし協力隊に応募した2人。「潜伏キリシタンの島で、世界遺産に登録される教会があるという紹介に絶対に何か面白いことがありそう、と興味を持ったのがきっかけです」と三原さん。黒島に来る前は東京に住んでいた石津さんは「下見に来たときに、静かで

鳥の鳴き声が聞こえて癒やされる感じが気に入りました。実際に住んでみると島の人のやさしさやつながりの強さを肌で感じます。黒島を選んで良かったです」と話してくれました。

島の人たちにとっては初めての協力隊の受け入れでしたが、積極的に島の行事に参加したり、運営をサポートしたりするなど、地域に密着した活動を通じて住民の皆さんにも活動を理解してもらえようになったとのこと。特に、観光客にきれいな黒島を見てほしいとの思いで地道に行ってきた清掃活動には、毎回たくさんの方の皆さんが協力するようになり、道路沿いのごみが減るなどの効果も表れているそうです。

新たな風を吹き込む

島での活動において2人が共通して感じているのは「島外

から来たのでしがらみがない」ということ。まちおこしには地域の皆さんの協力が欠かせません。「新たな取り組みをするときにいろんな人に協力を呼び掛けたり、島民の間に入って話し合いをしたり、そういう潤滑油のような働きができるのは、良い意味で『よそ者』の



(上)島の有志が作った蕨(わらべ)展望所。御影石のテーブルや花壇があり、島民の憩いの場となっています。黒島天主堂や展望所など、島には手作りのものがたくさんあります (下)展望台で休憩していた島のおばあちゃんと談笑する三原さん

強みかもしれません」と三原さんは話します。市内の希望者をボランティアとして受け入れ、宿と食事を提供する「みんパック」もその一つ。試験的な実施でしたが、島の人の反応は上々で、人を家に泊めるという文化がほとんど無かった黒島に新たな風を吹き込んだ企画でした。

観光客に島の思いを伝える

世界遺産登録を間近に控え、観光協会のサポートや土産品の開発など忙しい日々を送りながらも、島の人と協力しながら



宇久島も協力隊が活躍中！

宇久島でことし4月から地域おこし協力隊として活動する森陽香さん(左)と齋本章太さん(右)。手に持つのは宇久島の牛をモチーフにしたキャラクター「BEBE」のお土産品。島の若手と一緒に、デザイン・開発した自慢の商品です。



地域おこし協力隊の三原直也さん(左・広島県出身)と石津義秀さん(右・福岡県出身)

ら、自分たちが手掛けたことが少しずつ実を結んでいくところにやりがいを感じていると話す2人。石津さんは「世界遺産ということで注目されていますが、今ある観光スポットに留まらず、島の人の思い入れのあるものを伝えていきたい。食べ物や人、物などいろいろな資源を掘り起こしてストーリーでつなげて、新たな観光としてお客さんに楽しんでほしい」と今後の目標を話してくれました。黒島を元気にしてくれる隊員の活動に期待が高まります。

取材日 11月19日

相浦港から50分！ 黒島へ出掛けてみよう

黒島への行き方

- 相浦港までの交通手段
 - 松浦鉄道 佐世保駅→相浦駅下車徒歩5分(約30分)
 - バス 佐世保駅→相浦棧橋(約30分)
 - ※相浦棧橋前の駐車場には限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
- フェリーの時間(1日3往復、約50分。高島港経由)
 - 黒島行き 10時、13時、17時
 - 相浦行き 6時40分、11時10分、15時30分
- フェリーの運賃
 - 大人 片道720円、往復1,370円
 - 子ども 片道360円、往復690円
 - ☎黒島旅客船(フェリー) ☎56-2516

黒島の体験メニュー、観光ガイドなど (要予約、年末年始休業)

- 黒島豆腐作り体験(約3時間、1人3,000円)
- ふくれまんじゅう作り体験(約2時間、1人2,000円)
- 観光ガイド(半日、1日)
- 漁船クルーズ(約1時間)
 - ※観光ガイドや漁船クルーズの料金など詳しくはお尋ねください。
 - ※島内の民宿や食堂などで昼食を希望する場合は事前に予約が必要です。詳しくは黒島観光協会にお尋ねください。
 - ☎黒島観光協会 ☎56-2765

黒島ツアー(SASEBO時旅)

- 建築士と訪ねる黒島天主堂(要予約)
 - とき 1月24日@、2月28日@、3月27日@
 - ※9時30分相浦駅集合、16時30分散。
 - 料金 7,200円
 - ※昼食、軽食、ガイド料、フェリー代込み。
 - ☎佐世保観光情報センター ☎22-6630

※黒島天主堂の見学には原則として長崎の教会群インフォメーションセンター(☎095-825-7650)への事前連絡が必要です。

世界遺産に関する問い合わせ
社会教育課 ☎24-1111
観光物産振興局 ☎24-1111
地域おこし協力隊に関する問い合わせ
地域政策課 ☎24-1111